

● 夏原グラント活動助成金 20 万円決定 贈呈式:15 日 10 時から JR 草津駅 クサツエストピアホテル

19 日にプレゼンテーションに参加して、里山農園周囲の整備を強く訴えました。これまで数回の助成申請では、木津川本川での魚とりなどについての申請でしたが、今回は里山での環境改善に切り替えました。第 1 次の書類申請では見事に通過しました。そして第二次のプレゼンでは、20 団体が順次発表となり里山の会は 18 番目でした。やや質問にてこずった面もありましたが、スライドでの問題提起に審査委員からの質問や意見がなく無事通過したのではないかという印象でした。月末までに通知が届くといわれていましたが、29 日に助成金通知が届きました。これで里山農園周囲の危険な枯れ木の伐採経費が調達できました。何とか安全安心の農園に少しレベルアップできることになりました。よかった、よかった。それで来る 4 月 15 日に贈呈式の案内もありました。10 時から草津市クサツエストピアホテルで開催され、審査後の講評が発表されます。続いて昨年度のその後助成金団体から事業報告が行われます。大いに結果報告について学ばなければならないことになりました。

● 里山農園のナラ枯れ木伐採を実行 25 日

ナラ枯れ木は 28 本が発生しています。直径 30 cm 以上もあり、高さも 15m を超える巨木です。多分放棄田になる前は薪炭の材料として、利用されていたものです。ナラに加えてクヌギが混じっていて、枯れ始めて 3~4 年が経過する巨大な木です。とても大きく私たち素人では伐採は難しく、なかなかの難物でありました。

しかし農園の活用を行うには落下物が予想される危険な場所での作業は不可能です。危険個所の取り除きの必要性に気づいておりましたが、なかなか決断ができずに来ました。もうこれ以上は待てないと判断して森林組合の皆さんの協力をお願いしました。さすがにプロの皆さんで日頃簡単に伐採されているのか、約半日で計画していたものはほとんど伐採していただきました。最後に残った超大物は斜面に生えるかなり立派な大物だったのですが、これもちょうど簡単に伐採できました。いずれもこの山ではなかなかのもので、通常 14~15 年になると伐採されていた薪炭林が約 50 年間放置されて、これだけ大きくなったものです。この山の木はほとんどその時代から伐採されなくなり年輪を数えると 40~50 年ものだということがわかりました。

● 親子花見乗船体験と木津川展（日）10 時に第 1 船出発 お越しく下さい 順次乗船です。

カヌーも無料体験です。14 時 30 分終了です。 今年は桜の開花が例年と比べて遅くなっているようです。まだ蕾が少し膨らみかけて、少し赤みを帯びてきた状況です。予定している 2 日には咲き始めになるようで、9 日ごろが満開になるのではないのでしょうか。摂南大学から 15 名の皆さんが応援にお越しいただけるので、随分とにぎやかになります。天候は花曇りの様子で頃合いでしょう。一年に一度の大きな川の出現で楽しいひと時が演出されます。綿菓子も出店（100 円）して雰囲気盛り上げます。ぜひお越しく下さい。なかなか体験できないとりくみですよ。そして同時開催(第 3 集会所)の木津川展では魚の展示から一転して、木津川の花の写真を中心に展示します。里山の会の主力である植物花写真をご覧ください。きっと皆さまのご期待に応えられる作品がずらっと並ぶことでしょう。

● **春の野草を味わう会 9日（日）参加者募集**

四月の定番といえば「野草を味わう会」です。長年木津川グランドで開催してきましたが、教育棟が実現したので、雨天を心配して大型のテントを張る手間がなくなるので、里山農園に会場を移して4回目になります。少し遠く不便を感じますが、木津川とは違った新緑が芽吹く素晴らしい風景が出迎え、歓迎してくれます。お越しになった皆さんは心が癒されると大満足をいただけてきました。タラの芽も大きくなって一般ではなかなか口にできない高価で貴重な食材です。何よりも新鮮さそのものですからおいしいことは太鼓判です。新年度の最初の里山の会が誇る定番の取組みにこそぞってお越してください。参加費は大人 500 円です。大自然を満腹しましょう。

● **第 22 回通常総会 4 月 29 日(土)に予定**

社員各位のご準備をお願いします。会場は降雨に関係なく里山農園教育棟で開催します。時間は午前 10 時から 12 時の 2 時間です。今年は新役員の選出が加わるので、少し時間がかかるかもしれません。ご準備のほどをお願いします。諸般の都合により会場の変更があります。

● **会誌第 42 号原稿締め切り 3 月 20 日 原稿の集まり具合が少し心配です。ご寄稿ください。**

昨年発行した 41 号は 137 頁とかなりコンパクトになりました。今回も原稿の集まり具合だと 41 号程度になるのではないかと思います。仲間の広場を重視しているので皆様のご寄稿をよろしくお願い申し上げます。

● **村田源先生の「京都植物誌」は最後の校正段階にさしかかっておられるようです。夏ごろには出版できるとの近況が届きました。先生は 90 歳を超えて研究者として研究成果を発表しようと意欲満々で頑張っておられます。多くの会員各位は常に年齢を気にされていますが、先生と比べて若い私たちは、先生のファイトから大いに学ばなければなりませんね。**